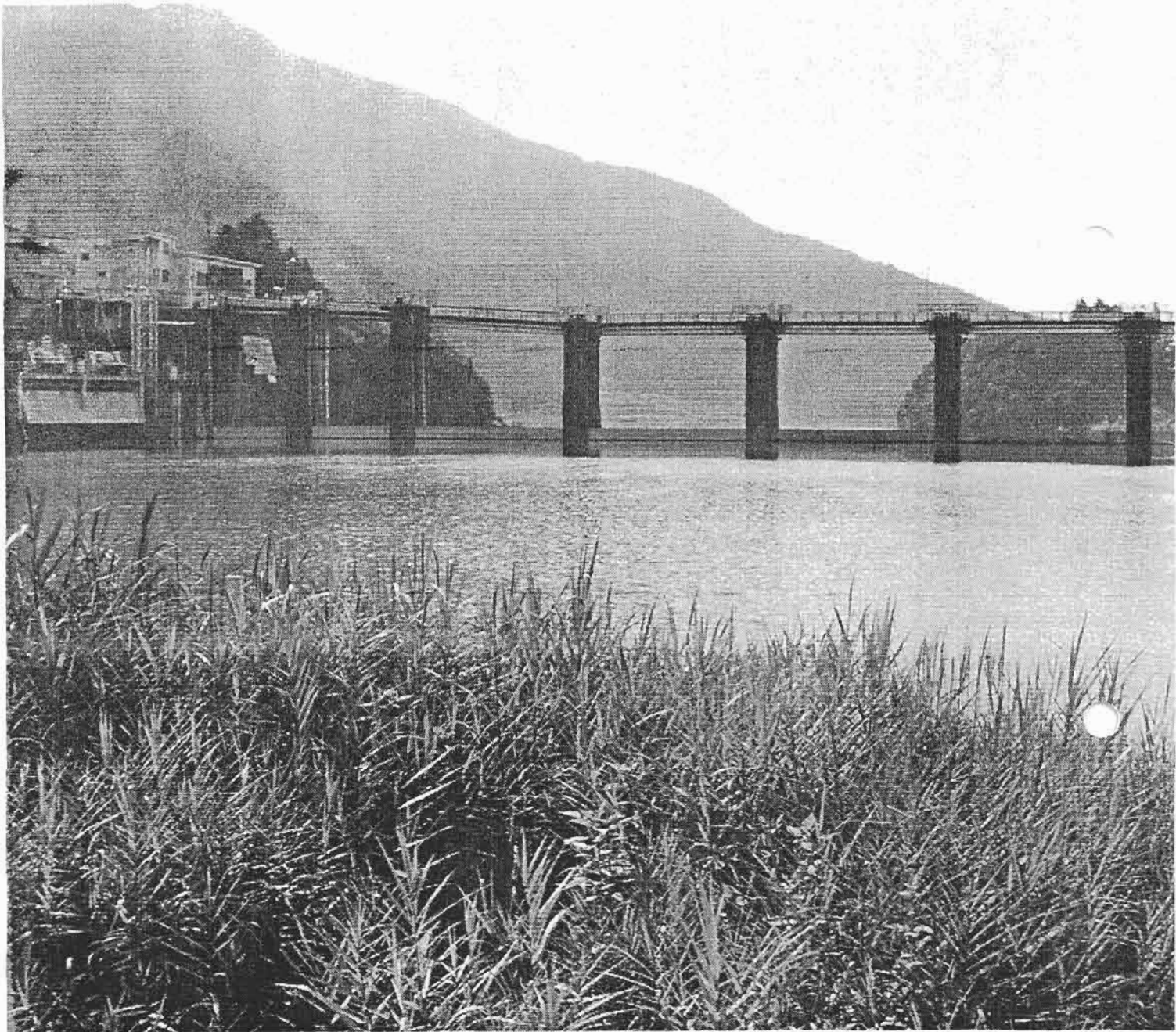


# 中川根ふる里通信

= 第59号 =

中川根ふる里通信  
 昭和61年4月20日創刊  
 編集・発行・連絡先  
 〒428-0313  
 静岡県榛原郡中川根町上長尾  
 TEL. 0547-08-0015 859-6  
 郵便振替口座 00870-4-81556



大井川で一番川下に造られた

## 塩郷ダム全景

上流より  
下流を望む

ふる里中川根 初夏から初秋への移ろい

\*\*\* 天候のこと \*\*\*

58号が皆さんのところに届くか届かない内に暑さはやってきました。五月末、やっと五月晴れになりましたが、さわやかさではなく夏本番を思わせる暑さとなりました。六月初旬、県内山間部は大河沿いは早くも三十度と越え、本川根や佐久間は記録更新とテレビニュースに度々登場しました。中川根として例外ではなく、かつて川風の涼で暑さを癒すなど夢のような話となってしまいました。大井川は利水により川面に水が流れなくなり川原砂漠が熱せられ高気温(冬場は冷却され低気温)と深い関係があるように思います。緑豊かなこの地が都市部と同様な環境になってしまいました。

例年この季節梅雨となり曇や雨のうっとうしい日が続き夏至といえども日中の長さを感ずることがありませんでした。今年は何に雨も降らず、六月の日の出から日の入りがこのように長く明るく暑いものだとは、と改めて感じ入りました。

六月下旬から七月中旬まで連日三十五度前後の気温となり、体温より高い日も度々、生き物全てが夕方を待遠しい状態になりました。この頃になると暑さは、東北、北海道を除く全国的なものになり、少雨、水不足が連日伝えられ、テレビの天気予報の「梅雨前線」の説明にも「かなり無理

ナツバキ

しているな、今年も空梅雨じゃあないか」という文句をつけ、「気象庁長期予報は反対だと思



うべし」の状態。梅雨明け宣言が二日に出来ず、増々の暑さと身がまえていると、七月二十日頃を境に

天候は一変しました。毎日のように雨が降ります。県内全体という訳ではなく、やはり山間部だったようですが、八月二十日まで、雨の降らない日は何日だったろうかと数えるほどの雨の夏となりました。お陰様で高気温とはお別れしましたが、空梅雨から雨続きと、農作物に与えた打撃は計り知れません。又、急激な高温に伴う熱中症の恐れ、高齢者の方が次々とお亡くなりになりました。

八月二十一日、台風11号が遠州灘方面に進行中との予報で、内陸部の風雨も心配されました。大井川の出水も少なく、上流大型ダムも底が露出するほどの水位から満水に近い水量になり、下流部利水、水不足も一気に解消され、恵みの雨となりました。が、全国各地に集中豪雨の被害もあり、台風は、回りの渦状の雲のかかり方ではるか離れた所も危険になることが多いですね。

九月十日、台風15号到来。11号と似たコースをたどり、静岡県裾野断との予報でしたが、中川根をはじめ山間部は風雨とも台風接近の割には少なく、主だった被害にも見舞われず、無事通り過すことが出来ました。しかし全国各地の様子を見ますと、猛烈な豪雨、土砂崩れ、河川の増水、低地の浸水、突風と多くの爪痕を残して去りました。前にもお知らせしましたが、旧暦の閏四月が周り来る年(三十九年周期)は、気候変動の激しい年である。という言伝は迷信扱いはできないようですね。動物は気候や天変地異を予知する能力を持っていると、言われますが、こちらの野山には、今年も蜂が沢山発生して、蜂の巣が比較的高い所に造ってあるのが多いようです。山嵐が来



る年は蜂の巣は低い所に造りますから蜂は台風1号、15号も強風雨がなく、こちらに來ない事もお見通し、という事でしうか。これから秋本番、そして冬へと向いますが、どのような秋になるのでしょうか。

\*\*\* 野山の花のこと \*\*\*

日照りの年は草木は危機感からか、子孫を残す為、例年より多くの花を咲かせ実らせるといえます。その為か野山の花が美しく咲き乱れ、それは美事でした。

初夏の奥山は白い花が目立ちます。シロヤシオ、オオカメノキ(ムシカリ)ヒメウツギ、ホウノキの大花と、新緑に白色が一際生之ます。七月になると、ヤマボウシ、ヒメシヤラ、ナツツバキ、リョウブ、ミスキ、エゴノキ(こはせ)と、白い花を目掛けて昆虫が集まり、それを食む鳥も来て、とてものにぎやかです。ヤマボウシ、ヒメシヤラ、ナツツバキは高嶺の花、ヒメシヤラはお茶の花を大きくしたような花、ナツツバキは山茶花によく似た花、一日で開花して翌日は散る儂い花ですから、この季節、春秋に比べて訪れる人も少ないのですが、山道に椿の花が散るように、白い花が沢山散っている所で、はっとして頭を上げると、ヒメシヤラやナツツバキがほほえんでいます。ウルシ、ヌルデ、タラの木に乳白色のつぶつぶした花のかたまりが咲く頃、アカネトンボが山中を飛び交い、秋の訪れを告げます。



里山の道路沿いにもなかなかにあでやかです。薄紫系のフジの花が甘い香りを漂わせ、ウツギ(卯の花)の真っ白にニシキウツギの紅色、合掌の花のピンクは、枯木に花を咲かせます。ようがの言葉とおりです。

あの、繊細な花からびっくりする様な種が出来るのは、マメ科ならではの子孫繁栄法なんではしうか。

梅雨時に何故か葉の一部を白に変化させるマタタビの葉、この時期とても目に付きます。この現象が白からピンクに変わり

やかて木全体が緑になる頃盛夏となり、マタタビの所在もすっかり判らなくなっています。深緑の特徴のある葉の上に、白、ピンク、エンジとにぎやかな色彩におしべがカルしてぎっしり固まった花芽が次々に開花するウサギの花が咲くと、そろそろ夏は終りです。とも目立つ花ですから、あちこちにあるのが判ります。ウサギは古来から食用に保存されていた貴重な植物で、名のとおり葉がピタミン剤のような強い臭いがあります。リョウブ(ぎょうぶな)ヤミズと共に飢饉にぞなえ、保存した昔、戦時中の食糧難を救った植物として知られていますし、赤い実からは空色の染め物が出来るといいますから、一度やってみたいと思っています。皆さんも、チャンスがありましたら是非試みて下さい。

萩の花が咲きはじめ、葛の花が甘い香りをあたり一面に漂わせる頃、猛暑の白から開放されて、はっと息をついているこの頃です。畑のすみ、彼岸花も真赤な花弁をふるわせて、行く夏の後姿を見送っているようです。

花が咲けば実を結びます。カエデ類のように気胞がありプロペラで遠くの地に旅立つもの、鳥の餌になり、新地を求め、るもの、獣の食糧になるもの、そして、私達に実りをとめて、生命の営みの感動を与えてくれるのです。



ふるさと夜話第三十話

笑顔をおぼれて生きてきた私の話

原田耕作



「笑顔は人生の最も美しい花」  
「美しい笑いは家の中の太陽である」

この言葉はよく唇などに書かれておるが、これらの言葉を自分の身につけるべく受取ってくれる人は、世の中に何人あるだろう。私共老人の考えでは、美しい花と言ふ言葉は何となく女性を表し、太陽という言葉は男性を表している感じがする。しかし現代ではその考えは的を外れているかも知れない。いずれにしても笑顔は世の中を和やかに明るくすることに間違いはない。

ところで私は自分を考えてみると、今は老骨となり果てて、笑っているのか泣いているのか判らない顔とになってしまったと思うが、若い時はどうだったろう……。太陽か人生の花に幾分でもたとえられる人間らしい顔をしていたであろうか、人間にとって最も判らないことが自分自身である、というから私は自身の内も外も判らないことが当然と思つてゐる。顔を鏡に写してみたとて心までは判らない。

ムラサキの花  
しかし——思い内であれば、色外に現る——  
という。



この言葉から考えて、私という人間は、自分の生活環境から、和かな人に好かれる顔の持主であり、また心の持主

であつたとは、決して思つていない。私が十一歳の時、父が四十四歳で他界した。私には弟が一人あつた。父は三十一歳の母と、八十余歳の盲目の祖父と四人残して自ら命を絶つたのだつた。少年時代の私は母の手助けで六反歩の茶園と、麦や芋を作るための二反歩の白畑の耕作で、高等小学校も満足に出なかつた。弟は奉行に出して私は十七歳で人の仕事に出た。

十七歳の時、地名発電所の用水工事に、十八歳で川根索道の架線工事に、次いで大井川鉄道の護岸工事に、二十二歳で家計を持つたが、親ゆすりの借財一千三百円がなかなか払えなかつた。当時茶の代金は一貫匁(四匁)一千二百円位だつた。とてもニコニコ顔の生活はできなかつた。家の中の太陽にも美しい花にもなれなかつた。

しかし、私の家は不思議にも元禄年間から三百年続いていることが、はつきりしている。この事實は今日まで変わらず貧しい生活を続けてきた私の誇りである。家系は永く続いている。住所を転々と変えてゐる家がどこにもある。給料取りの住所移転は別としても、事業家の発展的転住、反対に不振による転住等事情はいろいろであるが、しかし、私の家は三百年に渡つて住所を

を変えていない。その理由は、何であつたのだろうか。それは貧棒のおかげだつたと私は



考える。貧のどん底をやぶって尚、下へ、ちることはできなかつたらしい。私はいつも仏様を拜む時、三百年間貧しい生活を続けてきてくれた先祖代々に何の祈願もしないが、貧棒を続けてくれたお礼の言葉だけは忘れない。

ところで原田家三百年の打続いた貧棒生活が身に染みついたわけでもなからうが、笑いが消えてしまいう日が往々あったことは悲しいことだった。その笑いを忘れた私は昭和の中期、百姓の借金経営に一段落つけたため、仕事を覚えてみようとして人にあまり好かれない警察界に入った。昔の警察官は現代の民主警察と異って、極めて笑顔をつくらぬ人種が多かった。

戦後間もなく産業組合が農業協同組合に変身した。思いも寄らず私は理事の一人に選ばれた。さて、農業協同組合に入って驚いた。前身の産業組合が膨大な赤字を作って、農業協同組合へ渡して来てあった。

赤字組合の給料は当然安い。一ヶ月四千円、女子職員は一千二百円、働いてくれる人達に申訳が無いと思つた。美しく明るい笑顔は一家の太陽だけではない。すべて

ホウの花



の団体の太陽であるべき苦であるところ私が働くことになった組合は、笑顔が生れるような組合ではなかつた。しかしこの件については一切触れないこととして「笑顔は人生の花であり太陽である」という言葉からの自己反省の事実だけを書きとどめることにする。

当時の農業協同組合としての大きな販売事業は当然製茶だった。ところが、この茶の代金が容易に入つてこない。従つて出荷者に支払いが出来ない。

或る日、村の旦那衆といわれる家の若旦那が茶代金の請求にきた。日頃笑顔を見せることのない人が、代金の請求だから一層むすかしい顔になっていた。

「お前らが茶の金をくれんで、仕方なく

やまー(山林)一枚売ることにした。」と、茶代金未払についての不平を数々並べていた。私は「申訳ないが、もう少し待ってもらいたい。」と云つてから、言わなくてもよいことをうっかりいってしまった。「あなたは茶の金が入らないから山林を売ると言つたが、売る山林の無い人でも待っていてくれる人達が多勢いる。そこを考えて少しの間がまんしてもらいたい。」と云つた。ところが私の言葉に若旦那はひどく腹が立つたらしく、私の顔をにらみつけるように見て、「お前はもうテツと、ひとに愛想よく物を言え。」と言つた。

彼の怒声に私はおかしくなつたと同時に一寸言い過ぎたかと後悔もした。彼は村一番有名な無愛想者である。その無愛想者から思いもよらず「ひとには愛想よくものを言え。」と忠告を受けたのである。いささか私はムツとして「ありがと、これから気を付けます。あんたから叱られたと言ふことは如何にこの私が仏頂面の持主であるか、川根一番の無愛想者であるか、ということになるから今後充分気



花の紅(さすべり) 百日紅

を付けます。』と言うと一層仏頂面になって帰って行った。傍らにいた人達が笑っていた。

彼が帰ったあとひとり考えてみた。「彼等のような旦那衆と言われる者に、今のような言葉を浴びせられるのも、こちらが貧棒人政である。彼等の財産は山林だ。山林を何十町歩、何百町歩所有しているか知れないが、あの男の口頃の態度からみても相当の山持ちだろう。山林は打捨てておいても一本一本の樹が一年間に何十円、何百円の金額がくっついて太ってくれる。ところが無産者は己の体を使わなければ金が入らない。しかし私は体を使っても彼等のような人間を相手にしてこんなところに行くまい。」とつくづく考えたことがあった。

そんな時代から早くも五十余年過ぎ去ってしまった。私は貧棒百姓として変ることない生活に明け暮れて、最も美しい花と言われる笑顔というものを忘れていた。明るい太陽であるべき家の中の笑いも忘れていた。

笑いを忘れた苦勞の年月は、永く感ずる筈であるのに一年が実に早い。光陰矢の如し、九十一歳の老骨となり果ててしまった。



かし、また息のある間は、とお思いの方だろうか。「なつかしいふるさとの話をなるべく聞かせてもらいたい」とお手紙を下された方があった。うれしいことであるが、心配でもある。果して御期待に添うことが

できるかどうか。みなさんが美しい笑顔となって読んで下さるものを、せめて一つくらい書きたいと思つてはおりすが、ところどころで私が無愛想でお叱りを受けながら過ぎ去った年月、五十余年、その間に彼の財産の森林はスクスクと伸び、ムクムクと太って彼を喜ばせているであろう。彼は今もって健在と思つて、年を重ねておだやかな男になってくれたであろうか。彼の顔を改めて思い出しつつ筆を置くことにする。



原田さんに、ふる里夜話や中川根町のことを知りたいた方は、是非お手紙にて、原田さんにおたずね下さい。住所は、

〒428-0314 榛原郡中川根町下長尾 二三一

TEL. 0547-58-0681

### 山犬段 フナ林の中に ほたるが舞った

7月30日～8月1日まで、カモシカキャンプという、12歳前後の子供達を、南アルプス周辺の大自然とふれあうキャンプが、山犬段、静岡大学演習林宿舎でありました。以前、白神山地のフナ林にほたるが棲息しているのをテレビで見たりありました。又、山犬段小屋の雑記帳にも、宿泊された方が「ほたるが舞っていました」と記帳されていました。「もしもすると、ほたるに逢えるかも知れない」。7月30日夜の林の中のハイキングでは見つけられませんでした。五感をたよりに霧の流れるのを見、風が吹く。意外と明るい(13日月)林の神秘と体験しました。忘れかけていた身体に原始の血が走り出した。7月31日3時起床、ハダ段へ日の出ハイキングに出発しました。夜ハイキングの時あった月、すでに西へ没んで、あたり一面の真っ暗闇。—— ほたるか、2匹、3匹、4匹 飛んでいました。—— フナは保水力が大きいので、根元に貝が生息して、それに、ヒメボタルの幼虫が宿って、水田がなくても、棲息するのだせうです。山犬段もそういう所です。

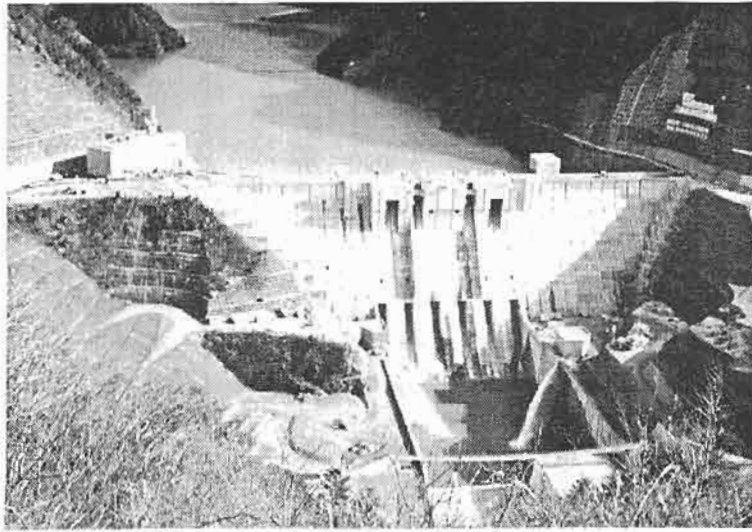


# 長島ダム だってとんなダム

本川根町 大村勝枝 (徳山出身)

「長島ダム出来ましたね。」「とんなダムですか。」「皆さんもキッと興味をもたれることでしょう。」

奥大井の四方の山々の緑が水面に映え、エメラルドグリーン。湖面が広がっている、この長島ダムを中心に、南アルプスあぶとライン(大井川鉄道井川線名称)や、大井川の溪谷などの自然を、楽しむ人達が、山岳鉄道にハイキングに満喫した顔を輝やかせていました。



これは、試験的に水を貯める湛水試験が行われ、三月に満水になり、春たけなわの頃のことです。

その湖の名前は「接岨湖」と命名され、記念碑の周りには、スナップ写真も写す人々で、大変にぎわっております。

また、「奥大井湖上駅」から天狗石林道(森林管理署)に入り、アカマツ天然林や、ヤマシヤクナゲの群生、ヤマセミ(野鳥)などを散策したかと思われ、登山者も、湖水に

見とれ、この雄大な堤体の風景に見入っており、(写真)三月満水になった接岨湖と長島ダム(全望)

大まかな概要を記して見ますと

長島ダムは、建設省の直轄ダムとして、総工費一六七億円、二十八年の歳月をかけて建設されました。

ダムの目的は①洪水調節 ②流水の概能の維持

③かんがい ④水道用水の四つです。水道は、四市十二町への供給など、地域の為に大きな役割を果たしています。ダムに発電というイメージが強いけれど、ダム維持に必要な発電以外は、発電には使われず、多目的ダムとなっております。

長島ダムの長さは三〇八m(新幹線約十二車輪分)高さは一〇九m(東京タワーの約三分の一)水を貯める量七八〇万m<sup>3</sup>(後樂園ビッグエッグの約六十三個分)使ったコンクリートは八十六万m<sup>3</sup>(東京池袋サンシャインビルよりやや大きい)重圧式コンクリートダムです。

ダムの最も高い所は標高四八二mあります。くわしいことについては、ダム右岸の平場(井川線

長島ダム駅付近)に平成十二年に完成したダム管理所があり、洪水調節、利水補給等のダムの操作はもとより、長島ダム管理に関する全ての業務も、行っていきますので、その中に入ると、どのようにしてダムが出来たのかも、わかりやすく掲示され説明してくれます。

この壮大なダムの完成の前には、試験湛水が始まる本川根町の長島ダム湖底で、平成十二年十月十四日の日に、二十一世紀に語りつぐふるさとの水・こころ

の歌をテーマにした、大井川・長島ダム湖底フリステ  
バルニ○○グが開かれ、延べ二五〇〇人が新しい日本の  
風景を歌った童謡に耳を傾け、やがて消えゆく景色  
の中で、さまざまないイベントを楽しみました。

会場はダムよりニキロ上流にある、真近かにせまっ  
たわかふじ国体でカヌー競技場となる地点で、地元  
本川根町の赤石太鼓で幕をあけました。「新しい水  
のふる里」として愛されるため童謡の歌詞を募集  
したところ、全国より四八九点が集まり、茨城県新治  
郡の主婦である関悦子さん(三十五)の「夕暮れ時」  
が最優秀賞に選ばれました。初披露したのは、ソプラ  
ノ歌手の島田祐子さん。聴衆は郷愁を呼び起す歌詞  
を美しい声で歌う島田さんの熱唱に聴き入りました。  
夜空には数百発の花火が上り、やがて消えゆくダム  
の湖底に地ひびく花火の音のすこさに感動と涙で  
震えました。遠くふる里を懐しんで来た人も多  
くありました。

それから、年が明け新世紀、平成十三年二月十七  
日には、満水式があり、ゲートが開かれ、動流壁に初  
の放水が行われ、関係者の方々のわれんばかりの  
拍手喝采とほりました。

又その日、堤体天端への道路も、管理塔の中も  
開放され、もちつき大会や、和太鼓の演奏(赤石太  
鼓・藤枝太鼓・川越太鼓・榛原太鼓・大井川に係わる  
太鼓の共演)があり、管理塔天望台より「接岨湖」を  
見おろし、山間に響く太鼓の音色に、多くの観客  
が酔いしれてしまっていました。

満々と水を貯えた接岨湖は、上流に延々と続きま  
す。あぶとラインに乗り、「奥大井湖上駅」へと  
「接岨湖にかかる人と列車用の鉄橋」レインポー  
ブリッジ(全長約四七〇m)を渡ります。線路脇の歩  
道をウォーキング、まさに湖上です。まさに湖上で  
す。下を見下ろすと胸がドキドキして、足がすくみま  
すが、さわやかな風が吹き抜け、一気に急な階段を  
登ると、遊歩道に出るのでホッとします。遊歩道  
は、不動滝、若宮神社を経て接岨峡温泉地区につ  
なかり、旅の疲れをいやせます。ざっと大まかに、ダム  
周辺の様子も、うかがえることでしょう。



私は、ダム堤体工事が  
一部完了し、既済検査  
が終わり、昨年の三月  
三十一日で退職となり  
ました。昭和六十一年  
よりずっと建設工事  
の事務をやっており  
まして、多勢の全国  
の方々を知ることが  
出来ました。

今年の六月中旬頃  
には、現場の事務所  
は、後形もなく取り  
壊され、現場をたたむ  
日が来りました。多勢  
の人達で片づけをし  
ました。

長島ダム工事現場にて、右はじの  
人が大村勝枝さん



七月七日、私と一諸に働いていた津軽弁の三人の作業者の方が、「母ちゃん元気でな！」と民宿を去り、「最後の最後まで、ほんとうに良く頑張った下さつて、ありがとうございまして。」と言葉を出すのもやつて、出稼ぎ労働者の見送りは、私にとって、これが最後の入達でした。

進入禁止の赤旗が、さみしく風になびいて、地均した現場作業所の跡に立つと、初めて勤め出した頃のことか、思い出されて、感慨無量です。次回は、現場の思い出を、書かせて頂きます。

—— 第一回終了 ——

前田・清水・竹中土木建設共同企業体、長島ダム作業所。協力業者時名越工務店

平成八年五月十一日、十二年三月三十一日まで勤務

旧姓 中沢勝枝

余録 寄稿依頼申し上げ候こと

四月×日、大井川鉄道に大村さんの姿発見。同席して、金吾まで楽しいおしゃべりをして行く。「去年夏で私も建設業の仕事も終りました。これから先、免許を取って、ペーシスターになろうかと考えているんだけど……」。「あなたは、川根三町の建設工事に係わっているんだから、それを生かした仕事があるといいね」。長島ダムの事も知りつづけているから、語り部になった方がいいね。「うーん」。

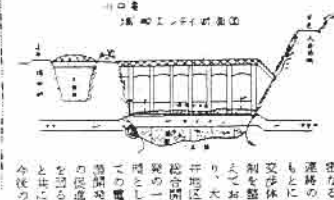
大村さんは、中川根町役場建設課に勤務、上司松井氏(私井測量設計事務所会長)の愛弟子、厳しい指導に耐え

た技術屋さん。当時(昭和四十年前半)は、中川根中学(統合)南赤石林道開設、落枝東高川根分校開設にもなる諸工事、各河川沿林道開設、地名農林センター工事など、大規模開発が目白押しだった。その後結婚離職、子育てと農林業従事。子育てが一段落するころ、中川根町の南の入口、県道地名トンネル工事に係わっておられる。大井川源流、赤石沢に造られた赤石ダム工事にも係わられたとおっしゃる。「嵐の中の奥西河内川取水口工事現場へ行く時は、所長と二人、どちらが落ちても助け合う事はできない……」。切羽詰った場面、何度か遭遇なさったとか。「その体験を是非、ふるま通信に寄せて下さい」と言う事で、今後、何回かに分けて寄稿して下さる事になりました。次回は、どうでしょうね。



沿岸民監視の塩郷堰堤工事

中部電力の説明で概要判る



大井川沿線の堤防は、昭和35年頃建設されて、早、40余年の歳月が流れました。当時上記図面のように、堤体底下に、導水トンネルが造られ、ダム湖の水深も、当時はおたなりあり、バックウォーターも、平各河原まで来ていましたか、推積土砂ですっかり埋めつくされてしまいました。

賀正

あけましておめでとうございませう。私共の村も合併して、一年有余を経、新たな村建設も軌道に乗ってまいりました。今年も皆様の御協力により、明るく村づくりに邁進したことを願っております。

村長の皆様へ

鈴木宗一郎

思いつくままに

地名 藤田正義

例年にならない暑さの中、眠りに入れないまま、死んだ見  
の年を数えるに似た幼年時代からの回想に浸って見  
ました。

思えば昭和一桁の時代は世相も厳しく、大人達の  
会話も今にも戦争が始まるような切迫つまった話か、  
不景気の話だったような気がします。

現在と異って当時はどこの家でも子供の五・六人  
は居て、小学生二・三人は当り前でした。当時私の  
属する隣組十四軒で、二十数名の小学生がおって、こ  
れは村全体の平均値でもあった。

小学校は複式授業で、一教室六十名位はいて、教室  
は机で一ぱいだったと思います。従って先生方の御苦労  
も、さぞ大変だった事だろうと、今になって当時の悪童  
が反省しきりです。唯、小六・高二、在学生の内、進学  
希望者は極めて少なく、その点、先生方の負担は軽かっ  
たのではないでしょうが。——その小学校も廃校で、  
今はない。——

あれほどにぎわっていた子供も七十年後の今日は、  
隣組十四軒で、小学生は〇人となって、住人は大半が  
六十五歳以上の高齢化世帯となっています。

小学校高学年になってから、放課後は勉強どころ  
ではなく、家に帰れば、農作業の手伝いか、弟妹の子  
守りで、今は殆んど見る事の無い、男子が弟妹を  
背負った光景は、当り前となり、子守りの労役の

ない友人が大いに羨しかったものでした。

女子は約半数の子が高等科（六年卒業後二年）へは進  
まず、六年卒業と同時に紡績工場に就職して行きま  
した。この時彼女等は年齢わずか十三歳だった。こ  
の彼女等の労働力が世界に冠たる日本の紡績業の基  
礎となり、戦後の経済復興に大きく寄与した事実は、  
忘れぬ事が出来ません。

男子は思い返して見ると、親の目を盗んで結構友人と  
「水泳」「チャンバラ」「戦争ごっこ」とかなり遊んだ記  
憶が蘇ってきます。

特に水泳は絶好のプールである東海パルプ発電所の  
水路がその場所で、幅約十二メートル、深さ平均二メー  
トル、長さ約三百メートルもあり、上流から一之橋、  
二之橋、三之橋と三本の橋が架かってあって、昭和三十  
五年迄は現存していた。——現在なら、この様な  
場所は第一に水泳禁止区域となるにちがいないありま  
せん。

「チャンバラ」と「戦争ごっこ」は専らお宮の森で、  
「中川一雄」さん「辻野曉」さんの二人がお宮の森の  
支配人でした。

大正末期生まれの我々にとって、最大の障害は、何  
と言っても、昭和六年から二十年迄の十四年戦争で  
した。小学校卒業後、年月をおかず、或は陸軍に、  
海軍に、或は大陸に、軍需工場へと、転身して行きま  
した。



スイカヅラ（ニンドウ）

永かった戦争が終ったとき、多くの友人が帰って来ませんでした。加えて戦後半世紀以上に経る年月は、幼時よりの数々の思い出を共有する友人達を「幽明境を異にする世界」へと追いやって、今は共に往事を語るすべもない。

八十年に及ぶ歳月を生き抜いて、今、回想して見ると「我が人生は悔だらけ」とも思えるが、振り返りに別の道を歩んだとしても、大した変化がある筈はない。ただ、体力は急に落ちて来たのが、いや心もなく自覚される。救急車にもお世話になったし、生死に係る大きな手術も受けた。その結果現在でも島田、静岡の専門病院に月一回の割で通院している。

その途中、列車内で社会の一駒に触れる機会がある。車内で二人掛けの席の一方に荷物を置いて、車内が混雑して来ても荷物はそのままに平気な初老の人、シルバースーツで空眠りをしてる若い人、使用を遠慮したい携帯電話で長々と通話している人、乗車すると同時に目的地までお化粧に余念のない女子高生。

こうして通院のお陰で、社会の縮図にふれる機会に恵まれるのも、人生勉強の一つかも知れない。

編集室より

藤田さんは、歴史、地理の生字引であられる。地名のこゝから、徳山村、中川根町、志太郡、榛原郡、静岡県、日本、世界とあらゆる事をご存知でいらしゃる。すごい方です。これからも、いろいろな事を教えていただいたきたたく、思います。皆さんも、ご声援をお送り下さい。

新しい世紀は「環境の保全」「自然と人間との共生」が大きなテーマであるといわれていますが、私達の身近な大井川の自然や環境はどうなっているのでしょうか。12年前、塩郷ダムから毎秒5トン(冬期は毎秒3トン)の水が流ってきました。しかし、その後、流域住民としての意思を明確にアピールすることなく現在にいたっております。それは現状に満足しているということでしょうか。一方その間に、治水・利水のみに重点を置いた河川法が、水質や景観、生態系といった河川環境も重視した法律に改正されました。私達は、今の大井川の状態に満足しているのではない。大井川を次の世代へ、胸をはってバトンタッチするために、原点へ帰って見直そうと、平成10年に「大井川環境保全推進協議会」を設置いたしました。

私達は大井川とその支流に、かつてそうだったように、親しみをもって接することができ、地域の自然や環境を保全する舞台として、また体験する場所として、多くの方が関心を持ち、その輪が広がっていくことを期待するものがあります。会長 北島 享



「大井川についてのアンケート調査結果報告書」A4版、56ページ。25の設問に「三川根の熱い想い」が一杯つまっています。御覧になりたい方は協力金 1冊500円 郵送料 300円です。〒428-0313 榛原郡中川根町上長尾 259-6

中川根ふる里通信係宛にお申込下さい。＊はがきで申込いただければ、郵送します。郵便振替口座 00870-4-81556 <アンケート報告書> 〇冊とお書き下さい。

東京のかたすみから(三十三)

テレビの始めから終りまで

ミスと私 渡邊實夫

今年になって、焼津上空の航空機ニヤミス、自衛隊航空機の誤射事件、官僚の不正、大学入試の合否判定ミスなど、気持ちが悪くかただらけしているため起きる事件、事故が次々と報道された。

ミスと言えは思い出すのは私の在職中の体験である。定年後十年経ってそれから解放されて、安らかに眠れるようになってはいるが……。

新卒としてラジオ静岡(SBS静岡放送)に入った私は、一日の放送進行表に従って、番組本編・コマーシャルなどの録音テープや効果用レコード盤をセットし、生アナウンスの挿入などを順序通りに秒単位で切り替えて、音声を聴きやすく調整し、各家庭に届けるという仕事に従事した。

放送番組表を見ながらの指先の操作は、ちよっとした勘違いや見間違いでミス(放送事故)を起こし、放送内容が目茶苦茶になることがあった。そんな時真っ先に、番組編成責任者の岩塚さん、心配そうに走ってくる。登呂遺跡の隣りにあるJORVR送信所(ラジオ静岡)の番組を電波にする場所)の責任者の勝瀬さんからミスを指摘した電話が入る。放送を聴いていた



スポンサーや代理店から問い合わせがくる、次は局内の営業部、番組担当者などから苦情が来ると言った具合、そんなわけて私の場合

ミスを隠すことは出来なかった。ミスをした後は廊下で人に出会うのもいやで、なんとなく皆に見つめられ噂されているのではないかなどと、思い、恥ずかしくもあり辛くもあった。

東京へ出てからのテレビ朝日では、音声に映像が加わり、ラジオより複雑な操作が多く、間違いは耳だけでなく眼にも見えるため、ミスは目立ち厳しさは倍増した。音は出たが画像が出なかった。音と画像がばらばらで一致しなかった。また画像が上下逆さになったり、裏表逆さになって出たなどのミスや、番組本編の取り違え、スポンサーの取り違え、放送時刻の間違いなどが、私が経験し苦い思いをしたミスの種類である。

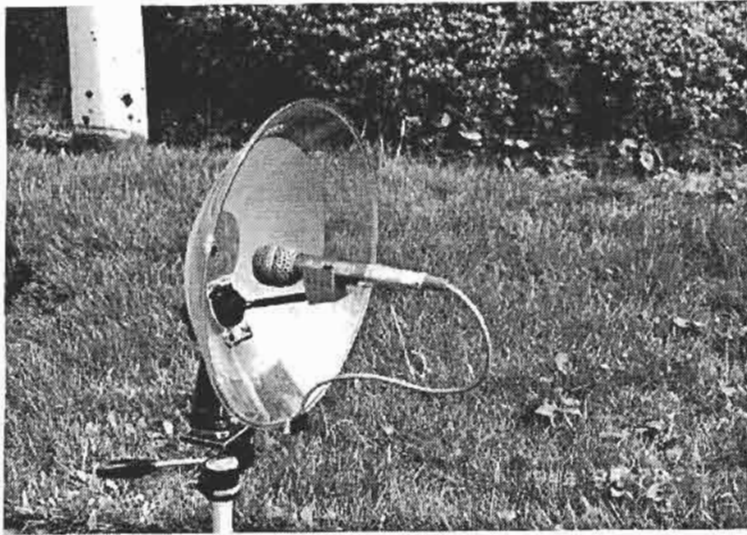
静岡の時より大変な思いをしたのは、ミスをするとう京のテレビ朝日一局の放送事故として済ますことは出来ず、テレビ朝日系列の地方のネット局全部にまで被害が及び、その営業補償や番組手当てなどで大騒ぎになることもあった。

国民の財産である公共の電波に束せて、国民の皆さんに見てもらわなければ、広告主であるスポンサーから一銭も払っていただけない、と言う放送という仕事ではミスは隠しようがなかった。

ミスを犯した私としては、事故原因・現象・措置など、こまめに報告をしなければならなかった。

局としてはスポンサーに詫び、再発防止の事故対策を立て、局内はもちろん系列のネットワーク事故対策会議にもかけ論議した。また事の大小によって国民の電波を管理している郵政当局へも報告し





紛失した袋の集音器用パラボラ同型器の写真

そこで早速私は市内麻機の袋屋へ行き、三千五百円の同等品を注文した。しかし、私に同情した上司、先輩が相談して資金カンパをしてくれて、実際に私が負担した額は二千円（私の本給の三分の一）です。私は今も思い出してはその温情に感謝している。

なければならなかった。放送以外にも私には忘れられない失敗が二つあった。一つは静岡でのこと。先ず昭和三十年七月、SBS静岡放送で、新人社員として単独飛行（一人立ちして仕事を）が許されて、夏の高校野球、静岡県県予選の中継に草薙球場へ行った時であった。集音マイク用パラボラ（バットの打球音を拾うためのもの）収納袋を置き忘れて帰社してしまった。早速草薙球場へもどり探したが見つからなかった。そのままにしておけば、後日の中継に差し支えるし、隠しきれぬものでもなく私は事実を上司に報告した。「このようなボカを会社に知られるとまずいから、会社に知られないうちに自腹をきって弁償した方がよい」と上司は助言してくれた。

### お国なまり連絡帳

“もんこん来るぞ、早く、うちへはいらずよ”  
“もんこが来るぞ——”

夕方、いつまでも家に帰らないで遊んでいたり、子供が行動範囲外へ（山奥へ等）行きなからたりする時、引き止めたり、家に入らせむために、先輩の方がよく話していた。もんこは、お化けか、幽霊のたぐいの怖いものかと思いましたが、実は蒙古襲来のすさまじさから、もんこがもんこになったのだそうです。小さい頃、もんこは怖いものと思いついていましたから、NHK大河ドラマ、北条時宗も、蒙古=もんこも頭のどこかに残しながら見ております。情報伝達方法も、何と変わったことでしょう。

もう一つは、東京へ出てテレビ朝日でのこと。全国テレビ中継網の品質試験が行われて、カメラを使った時であった。撮影中のカメラが盗まれてしまったのである。私が総務当局へ謝りにゆくと、時の総務局長鮫島氏（のち専務）が「うちの守衛はなにをされているんだ、泥棒まで職場に入れていたのか」と担当総務局員に向かつて一喝、私はこれには驚いた。カメラを失くしたのは私の部下であり、私はその責任者であった。だから当然、私に厳重注意のお叱りがくたるとるものと思っていたのだ。ところが総務局長は、私をかばって自分の部下である守衛に喝をいれたのである。私はお陰で無罪放免になった。私は部下のミスに対する扱い方、指導方法、救済方法にもいろいろなやり方がある、ということを上司にやって教えられた。私もミスを犯すことによって自分の弱さを知り、助けてくれた上役と心が通じるようになり、生涯の人間関係が結ばれる機会を得たと思っている。

（二〇〇一年八月記）

# 薬局型「書店」の運命

静岡市 西田享司

今から三十年前位迄は、街では十坪前後の売場を薬劑師さんが切り盛りする、家庭的な雰囲気のある薬局に似た「小さな書店」が主流でありました。薬局として、定価販売方式が崩れ去り、松本キヨシ型大型薬店が勢いの如く出店してきたのは、十年ほど前からであります。薬局はどのような運命を辿ったかといえは、病院の医薬分業方式が国の施策として促進され、主流としてその一方を担う型の新しい薬局が生まれてきているのは、皆様の記憶にも存知のとおりです。

私も書店を始めた二十五年前から四、五年は、将来に対する夢と希望を抱きながら頑張ったものです。しかし、大型資本にはどうしても勝てません。二十年ほど前から大型店が、雨後の竹の子の如く、街中に郊外に進出しました。

その一方で、新刊書を扱うコンビニの進出が猛威を振りました。大店法が改正された後、コンビニは静岡県だけでなく数百店も出店したようです。私の店の周りにも十店ほどでまわりました。

不幸にも、静岡市東部地区に十店以上あった個人書店は、今では二、三店しかありません。この板挟みで、ピーク時には東京都内で年間数千店近い店が廃業に追い込まれたといわれています。恐ろしく、

この人達は先代から受継ぎした人も多く、書物という文化を地元で普及させた功績は多大で、文化の灯が消えると叫ばれたの



はこの頃です。

私の店も何度か挫折し、そうになりました。一時、救っていたにいたのは、市図書館への納入業者として参入できたことでした。地元の有志の方のお力添えですが、今年で六年目になります。静岡市は県庁所在地としての立場もあり、文化面には格別な配慮をされているようです。

さて、薬局型小書店を守る再販制度は継続されることと一応結着を見たこととでひと安心ですか。ブックオフという流通機構の欠点を突いた新古書店の出店が目につきますし、時代の流れでもあるIT革命にどう対処して行くのか、生き残りをかけて小書店がウリアして行く問題は多くあります。私もむしろ二年間の納め時を間違えないようにすることにも究極の対策と考える昨今です。

断片的な素人分析で申し訳ありませんでしたが、上長尾の長塚書店様には、日常お知恵を拝借しておりますが、今後共よろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。ペンを置きます。



第58号「あいちゃんの日記」を寄せて  
いただいた中道正巳さんより、

第58号にてご紹介しました「あいちゃんの日記」「あいちゃんの肺がん闘病日記」に一人でも多くの皆様のアクセスをお願いいたします。と致し、残念ながら見ていただく事は出来ません。五月九日に四十一年の生涯



を聞じられました。日記は二月二十一日からとびとびに三月二十五日までありましたが、三月二十五日で終焉しました。ホームページは更新しないと、数ヶ月後公開の場から削除されますから……とありました。

中道さんはパソコンの中に「あいちゃんの日記」の全てを保存されていて、いっしょに編集して本としてご遺族にさし上げるつもりだそうです。ふる里通信にも送っていたので、来世でのあいちゃんの活躍が、きっとできますことを祈って、一編ご紹介させていただきます。

＊あきこのページより

＊山登り大好き

——最初の山でいきなりビバーク朝日岳——



学生の頃は日帰りのハイイクライはやっていました。本格的に始めたと言えるのは、就職してからでしょう。

最初の山は寸又山系の朝日岳という山。こゝでなんとビバークしてしまった。原因は地図にない道を通ったから。五人のパーティーで初心者は一一人、ち。う。と。十一月の職場の旅行に合わせて下山して、実会をやって帰ることにしていたが、当時は携帯電話もなく、連絡はとれないまま五人以外の職場の方達は、実会とろろではなく、本当に心配していた。おまけに署長までビバークしていた。私は初心者だったし、女の子は一人だったので、雨のあたりない場所をもらい、一睡もせず固まっていた。

幸い経験者は皆、いろんな物を持っているもので、ヘッドランプ、懐中電灯、ストーブ、ターフ、傘、余分な水など、暖かい紅茶を飲みながら話をし、あまり困る事はなかった。が、ターフで作った簡易テントの中に何か動くシヤクトリ

虫みたりなものを見つけた時は、「これなんですか？」  
「ああ、ヒルだよ。寸又山系にはいるんだよ。」「ぎー」と思った。が、しかし、自分の汗臭さに負けて、ヒルがいると思われる川原に夜中に顔を洗いにいき、着替えてきたのでした。山は好きだけど、二日お風呂に入れないところはパス。

翌日自力で下山した時は、戦場の皆は捜索隊を出すかどうかでもめていて、野鳥の会には連絡を取ったとか。署長は自責の念にかられて、よけちやうし、元氣なのは私だけだった？ おまけにKさんの奥さんは車で、すっ飛んできたのに、うちの両親たら「あの子は生命力が強いから大丈夫ですよ、心配しないで下さい」。全然心配していませんでした。

その後入った温泉で脱いだ靴下の中に、ヒルが二匹もいて、足が血だらけだったのは、気持ち悪かった。靴下はもちろん焼いてもらった。それから、山はみんなにおもしろいものかとはまった。その後、いろいろ山に連れて行ってもらうたが、子供が生まれてできなくなりました。

しかしこの夏、再度「デビユー」としても、うれい……が、しかし……こぼつき最初の経験から、やけにたくさんの荷物を持った母と三人娘（八歳・九歳・十一歳）が山を歩いていたら、私だと思ってくたさい。

＊あいちゃんの肺ガン闘病日記二〇〇一年

＊三月二十五日……こゝで終りよ……

今回の急性髄膜炎はきつかった。胸膜炎や心膜炎の比にならぬにせ、すごい頭痛と頭が使えないので、パソコンも打てない。すぐ脳が疲れてしまふ。でもまだ治療でき



★ 定期購読のお願い ★

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 年共 200円

皆様の定期購読が、ふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(3ヶ月ごと)を予定しております。今回で購読が切れる方と、始めて↓



↓ふる里通信をご愛になられる方には、郵便振替用紙を同封致しますから引き続き、ご購読をお願いします。もし、購読を止めたい時や、住所変更のりも是非ご連絡下さい。

郵便振替通知票番号 00870-4-81556

るところの転移でラッキーだった。今回も色々ありましたよ。エピソード。

まず今回の治療で抜かせないのが、神経内科のDr. Tでしよう。

終 \*

★ 原稿など集まってきたので来始めたのが八月初旬、遅くとも八月末には完成したいと思つて、編集書き始めました。八月十九日に、思わぬ事故に家族があつてから、次々と印事が入つてしまい、台風11号も台風15号も載せたいと思ひ、発行がすつかり遅れてしまいました。お詫び申し上げます。本年末迄に60号は必ず発行したいと思ひます。よろしくお願ひします。

★ 九月十一日、午後十時のニュースを見ておりますとニューヨーク、マンハッタン、世界貿易ビル、の惨事が、まるで映画の戦争シーンをみるよつに写し取されてゐるでは

ありませんか。二十世紀は平和と協調の世紀との幕明けが、この日を境に、ビルディングがぶっ飛びように消えてしまつたのではないかと、不安が過ぎります。

★ 遠いニューヨークの事件も、ふる里中川根と無関係ではないのも不思議です。静岡銀行、ニューヨーク支店で八十階から脱出され、両足骨折の新谷さんは、川根町葛菟本身の方。今回、薬局「書店」の運命。以前ニューヨーク見文録の奇蹟者、西田さんの息子さんは、マンハッタン、グリニッジ日本人学校の先生でいらつしやるという。お二人の無事をお祝ひ申し上げると同時に、犠牲になられた多くの方々に深く哀悼の意をささげたいと思ひます。

★ 火星は戦争星とも言われますが、火星は地球の兄弟ですから、戦争星ではないですね。

発行責任者 〒428-0313

静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6

小沢節子 TEL. 0547-56-0015